

2025 年度グローバル地域文化学部 グローバル地域文化学の実践 募集要項

「グローバル地域文化学の実践」は、日本国内においてグローバルな課題に主体的に取り組むフィールドワークやプロジェクト型の科目です。本科目を履修後に「グローバル地域文化学の発信」を履修することで、身近なグローバル・イシューについて英語で発信できる力も身に着けることができます。

科 目	単 位 数	学 期	担 当 者	募 集 人 数	費 用
グローバル地域文化学の実践2 (奄美を考える多様性と持続可能性)	2 単位	秋学期 (集中)	尹 慧瑛 hyoon@mail.doshisha.ac.jp	約 8 名 (最少登録者数: 4 名)	約 10 万円
グローバル地域文化学の実践3 (子どもの権利とウェルビーイング)	2 単位	春学期	見原 礼子 rmihara@mail.doshisha.ac.jp	約 12 名 (最少登録者数: 5 名)	約 1 万円
グローバル地域文化学の実践4 (教育の多様性と文化的感受性)	2 単位	秋学期	坂本 南美 nsakamot@mail.doshisha.ac.jp	約 8 名 (最少登録者数: 3 名)	約 3 万円
グローバル地域文化学の実践5 (移住者支援とエンパワーメント)	2 単位	春学期	石井 香江 kaishii@mail.doshisha.ac.jp	約 10 名 (最少登録者数: 4 名)	約 1 万円

※費用は今後変更になる可能性があります。

※「グローバル地域文化学の実践」の受講が決定した場合、「質的調査の方法」(春学期・金1)を可能な限り履修すること。

★対 象： グローバル地域文化学部

★募集説明会： 2024年12月11日(水)16時40分～ ZOOM開催

★募集期間： 2025年1月23日(木)～1月29日(水)

★選 考： 2025年2月3日(月)～2月14日(金)

★問合せ先： グローバル地域文化学部事務室(志高館1階)
T E L : 075-251-2610
E-mail : ji-grjm@mail.doshisha.ac.jp

★科目の取扱い

対 象	グローバル地域文化学部生
単 位 数	2 単位
単 位 の 取 扱	本科目の修得単位は選択科目 A 群に算入します。 また、本科目を履修後に「グローバル地域文化学の発信」を履修することで選択必修科目 B 群（スタディー・アブロード科目群）の単位を修得することができます。
開 講 年 度 ・ 学 期	グローバル地域文化学の実践 2：2025 年度 秋学期（集中） グローバル地域文化学の実践 3：2025 年度 春学期 グローバル地域文化学の実践 4：2025 年度 秋学期 グローバル地域文化学の実践 5：2025 年度 春学期
登 録	大学にて一括登録を行います（各自での登録手続は不要です）
注 意 事 項	クラス決定後のキャンセルは基本的に認められませんので、十分検討した上で出願してください。 履修中止、および秋学期開始前の登録削除も原則認めません。

★募集説明会

日時：2024 年 12 月 11 日（水） 16 時 40 分～

場所：ZOOM 開催

16:40～16:50	全体説明
16:50～17:30	【各クラスからの説明】 ①グローバル地域文化学の実践 2 ②グローバル地域文化学の実践 3 ③グローバル地域文化学の実践 4 ④グローバル地域文化学の実践 5
17:30～18:00	【Q&A】 ※希望するすべてのクラスのブレイクアウトルームに参加すること

★個別相談

やむをえず説明会に出席できなかった場合の質問については、各担当者にメールで連絡してください。

★出願受付

■受付期間

2025年1月23日(木)～1月29日(水)
【月～金 9:00～17:00 (11:30～12:30は除く)】

提出書類	所定の願書
願書提出先	グローバル地域文化学部事務室(志高館1階)
特記事項	各クラス併願が可能です。 締切厳守

★選考試験

■選考試験(面接)

2025年2月3日(月)～2月14日(金)

集合場所	各担当者の指示に従ってください
集合時間	各担当者の指示に従ってください
特記事項	選考試験は上記期間内で対面またはZoomで設定し、担当者から連絡します。 指定された日時に受験できない場合は、申請を取り消すことがあります。

★結果発表

■結果発表

2025年2月26日(水) 0時～

発表場所	DUETメッセージ
特記事項	出願者数の状況により第二希望以降のクラスに合格する場合があります。

★科目概要

科目名	グローバル地域文化学の実践2（奄美で考える多様性と持続可能性）
概要	鹿児島市から南に約400km、沖縄にほど近い奄美大島は、固有種や絶滅危惧種が生息する生物多様性の島であるとともに、島に流れ着くゴミやハブの駆逐など、人と自然環境をめぐる諸課題を浮き彫りにする島でもある。また、琉球王国／鹿児島県／沖縄／アメリカによる支配と統治の歴史とともに、独特の言語や信仰を残しながら都会から遠く離れた日常を送る人びとがいる。こうした「グローバル」かつ「多文化」な 이슈が交錯する奄美への訪問を通して、「日本」のなかの多様性と出会い、持続可能な生き方を考える。
スケジュール	集中講義形式で実施する。ただし、秋学期金曜2講時に事前授業・事後授業を8回程度予定している。11月下旬にフィールドワーク（3泊4日）を行う予定である。

科目名	グローバル地域文化学の実践3（子どもの権利とウェルビーイング）
概要	人権の分野で重要な役割を果たしてきた欧州評議会は、子どもの権利を保障するための取り組みも活発に展開してきた。これらは子どもの人権保障に向けたグローバルな歩みにも大きな影響を与えてきた。本科目では、欧州評議会との連携のもとで、子どもの権利にかかわるプロジェクト活動に従事する機会を得ながら、子どもの権利保障をめぐる歴史や理念と現実の課題を掘り下げて学ぶ。具体的なテーマとしては子ども虐待問題（とりわけ性搾取・性虐待をめぐる問題）に焦点を当て、欧州評議会が刊行する関連文書の日本語翻訳を行い、欧州評議会ウェブサイト等で公開する。さらに、京都市と連携し、プロジェクト活動の成果をふまえたアウトリーチ活動にも参画する。
スケジュール	春学期木曜2講時。ただし、アウトリーチ活動の日時は別途定める。7月末～8月上旬の週末を予定しているが、活動先と調整の上、4月上旬までに確定する。

科目名	グローバル地域文化学の実践4（教育の多様性と文化的感受性）
概要	世界的に急速なグローバル化が進む中、本授業では教育の視座から地域・文化に着目する。受講者は、グローバルな視点から移民の子どもたちへの教育、地域性の違いを超えた教育実践、文化的背景の異なる児童生徒のクラスコミュニティづくりに関する現状を学ぶ。それらを踏まえて実践的アプローチへの理解を深め、文化的コンピテンスを取り入れた教育活動をデザインし、日本の学校との交流を通して活動を実践する。これらの体験を通して、教育分野における多様性への理解を深め、それをどのように実践モデルに取り入れるかという実践的知見を育む。また、海外の研究者との交流や日本の教育現場での児童・教師との交流を通して、「Leave No One Behind」（UN）に向けたグローバルな教育的視点を養う。
スケジュール	秋学期火曜2講時。11月下旬に日本の小学校での交流授業実践を行う予定である。

科目名	グローバル地域文化学の実践5（移住者支援とエンパワーメント）
概要	<p>コロナ禍で緊急支援が始まると同時に地域の福祉事務所や役所に普段見慣れぬ多くの外国籍の住民が訪れるようになったと言われています。普段はコミュニティ内で生活上のニーズの解決を図っていることがその背景にありますが、日本社会との交流を求めている人々も少なくはありません。しかし、その接点の一つである日本語教室に仕事上の理由だけでなく、小さな子どもの存在や宗教上の理由でアクセスは困難です。こうした人々が地域と繋がるための<場>を創出し、相互理解や交流を深めることに加え、彼・彼女らの経験を生かす機会を作れないでしょうか。本科目で、日独の移住者の状況や支援活動を比較しつつ、移住者のエンパワーメントの方途について考案・実現してみませんか？</p>
スケジュール	春学期木曜2講時